

## 出前トーク通信 vol.6

出前トーク通信 vol.6 は、人気テーマのひとつである No.6-2 「青森県の歴史（考古・古代・中世）」（県民生活文化課）の様子をご紹介します。

今回の出前トークでは、縄文時代の環境、生活、土器、そして交流と交易について説明しました。

縄文時代といえば、青森県の三内丸山遺跡！今年7月に「北海道・北東北の縄文遺跡群」として世界文化遺産の国内推薦候補に決定し、話題となっています。今回の参加者の皆さんも興味津々な様子でした。

縄文時代とは、約1万6000年前から約3000年前まで、約1万3000年間続いた時代で、その代表的な遺跡が三内丸山遺跡です。縄文人たちは狩猟や採集によって定住生活を送っていました。約1万年前には土器や石器が作られ、約5000年前には三内丸山遺跡のように墓・住居・ゴミ捨て場が配置され、集落が形成されました。

縄文土器は輪積み技法という輪の形にしたひもをひとつひとつ積み重ねていく方法で作られ、表面を整えた後、最終的に文様がつけられます。地域ごとにその文様が統一されていたことから、彼らが文様に関する規則を作って、それを彼ら自身のアイデンティティ（象徴）としていたことがうかがえます。土器のような身近な話題になると参加者の皆さんの「うん、うん」といった相槌も増え、納得していた様子でした。



縄文時代といえば狩猟採集の時代。皆さん、縄文人＝原始人のイメージがありませんか？

実は縄文人は**おしゃれ**だったのです！

ヒスイの首飾りや骨で作った髪飾り、また動物や鮭の皮で作った靴など、女性は特に気を使っていたようです。やはり、いつの時代も女性は**おしゃれが好き**なようですね。



また、今回は消費者協会に伺ったということで、「もし縄文時代に消費者センターがあったら？」というユニークなテーマで縄文時代の交易について考えてみました。その内容を1つ紹介します。

Q. 相談者：縄文時代の若い女性

「恋人からもらったヒスイのネックレスが偽物のようです…。どっち…？」

A. 縄文時代には緑色細粒凝灰岩というヒスイに似た石がありますが、これは壊れやすくヒスイのように透けないので、彼はこれをプレゼントしたのかもしれませんが（笑）

こういった縄文時代特有の問題を現在の消費者問題になぞらえて交流・交易の様子を紹介しました。ちなみに、交易では物流が主であると考えがちですが、実は対価に情報が使われていたという説もあるのです。情報を対価として用いることで、北海道など広域へどんどん普及していったようです。

質疑応答では、「縄文時代、情報の中心は青森だったのに、どうして日本の中心にならなかったのか？」「交易において、いざこざはなかったのか？」など、参加者のうちほぼ半数の方々が積極的に縄文時代について質問されていました。

縄文時代は私たちが知る以上に多様で、発達していた時代だということが分かりました。参加者の皆さんもきっと縄文人＝原始人のようなイメージが消えたのではないのでしょうか？生活や交易をどんどん発達させていった縄文時代のように昔も今も、私たち人間は、本質的には変わらないのです。

これを機に、世界遺産国内推薦候補に決定した**三内丸山遺跡**を訪れてみてはいかかでしょうか？